

『学科専攻別3つのポリシー』

〈学位授与方針〉 〈教育課程の編成・実施方針〉 〈進学生・編入学生の受け入れ方針〉

1. 哲学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

哲学科では、常に探究心を持って自然と人間について根本から探求するとともに、世界や社会の現実にも関心を持ち、他者との対話や他者の理解を通じて、自己のあり方や生き方を追求する主体的な人間を送り出すことを目指しています。

そのため、本学科の卒業生には、次のような能力や資質を身につけることが求められます。

1. 真・善・美・聖などの根元的な価値について洞察する力
2. 古今東西の哲学、思想、宗教等に見られる多様な世界観や人間観について理解する力
3. 社会・道徳・法などについての根本的な理解にたって、人間のあり方を考察する力
4. 理論的・自立的に思考し、論理的に自己を表現する力
5. 自己と他者を正しく理解し、他者と対話しようとする開かれた態度
6. 現代社会に対する現実的関心を持ち、公共的観点で考察し、判断する力

2. 哲学科の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

哲学科では、以上に掲げた能力や資質を身につけることができるように以下の方針で教育課程を編成し、実施しています。

I. 研究分野

（編成方針）本学科の専攻分野は以下の5つの基本領域から構成されています。

1. 西洋哲学・倫理学
2. 美学・芸術学
3. キリスト教学
4. 日本思想史学
5. 生命・環境・社会の哲学

（実施方針）哲学としての全体性や総合性を重視する観点から、学生をゼミに分属させることなく、3年間を通して、どの領域の科目でも履修ができるようにしています。

II. 科目種別

（編成方針）主な専攻分野科目は以下の4種類からなっています。

1. 導入科目（「哲学入門Ⅰ・Ⅱ」） 哲学を学ぶための基礎的な力を養います。
2. 概論科目（概論・思想史等） 各基本領域の基礎的な事項を扱い、学習の土台形成を目指します。
3. 特殊講義科目（特講等） 諸分野についての各論の講義で、関心あるテーマについてのより深い理解を目指します。
4. 演習科目（演習） テキストの読解や問題の分析を行い、発表や議論を通して、受講者同士で新たな知見を見出し、共有します。

(実施方針)

1. 基礎的知識と視点を獲得し、読解力や文章力を身につける導入科目4単位を必修としています。
2. 哲学的な分析力、表現力、対話力を重視する観点から、演習科目12単位以上を選択必修とし、かつすべての学年において演習科目を履修することを義務づけています。

III.年次別教育課程

(編成方針) 自由で主体的な学びを尊重するために、2年次導入科目以外には、年次指定などは設けず、それぞれの関心に応じて、いつでも自由に履修することができるようになっています。

(実施方針)

- ・ 2年次 導入科目（「哲学入門Ⅰ・Ⅱ」）によって、哲学全般の基礎知識を身につけ、また論文執筆や哲学的対話の方法を学ぶようにしています。また、全体的・総合的視野を養うために、複数の基本領域にわたって概論科目を履修するよう指導しています。
- ・ 3年次 専門的な講義でより深い知識を身につけながら、演習では中心的な役割を担い、テキストの解釈やプレゼンテーションの力を高め、対話する力を磨きます。また、論文執筆力を高めるために、担任の指導のもと、学年レポートを執筆します。
- ・ 4年次 卒論演習（特殊演習）でメンターの指導を受けながら、学問的な文章の書き方を学び、文献研究や資料調査を進め、卒業論文を執筆します。

3. 哲学科の進学生・編入学生の受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

哲学科では、知ることを愛する人間であるなら誰でも受け入れることを方針としていますが、特に次のような意志を持つ学生に進学してほしいと願っています。

1. 世界、自然、社会、人間などについて、表面的な現象や事象にとらわれるのではなく、根本的な原理や構造を探求したい。
2. 固定観念や社会通念にとらわれることのない理論的、自立的な思考力を磨きたい。
3. 自己のあり方を洞察し、他者を理解しようとする開かれた態度を養いたい。
4. 理論的な課題についても実践的な課題についても、それぞれにふさわしい分析や判断を行い、論理的に自己を表現し、また他者と対話し、積極的かつ協調的に行動できる力を身につけたい。
5. 幅広い視野を持ち、総合的思考力を備えた社会科、公民科、地理歴史科、宗教科の教員になりたい。

編入学についても、同様の観点から、哲学への関心や志望動機を重視して選考を行います。

2017年3月31日更新